

令和7年度 生活習慣病検診管理指導協議会
乳がん部会

検診機関毎のプロセス指標について

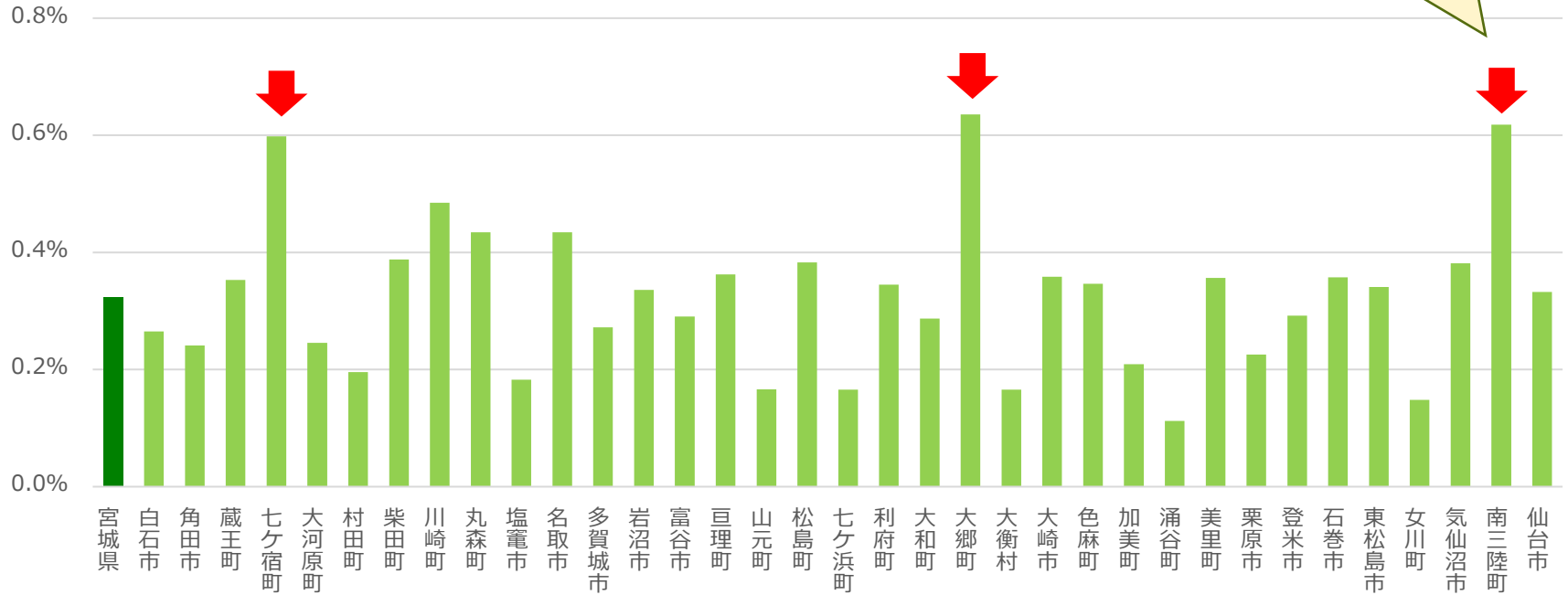


宮城県保健福祉部健康推進課

市町村単位でのプロセス指標の評価

資料 1 から抜粋

乳がん検診 がん発見率（2019-2021（3年平均）, 40-74歳、女性）



人口の少ない市町村では、がんが一人でも発見されれば発見率が高くなる

市町村の人口規模（受診者数等）に大きな差があるため、**市町村単位**での適切なプロセス指標の評価が困難

検診機関単位での再集計

市町村が委託している県内の検診機関は限られるため、**検診機関ごとにプロセス指標を合計し再集計**

→ 5 検診機関に分類

(一つの市町村で、複数の検診機関に委託している場合で、各指標が分離できない場合(検診機関毎に集計していない)や検査数が少ない検診機関は集計から除外)

検診機関毎の受託状況：市町村数 (2021 (R3) 年度の委託状況)

検診機関	集団	個別
A	29	3
B	0	5
C	0	2
D	0	2
E	0	1
その他	0	8

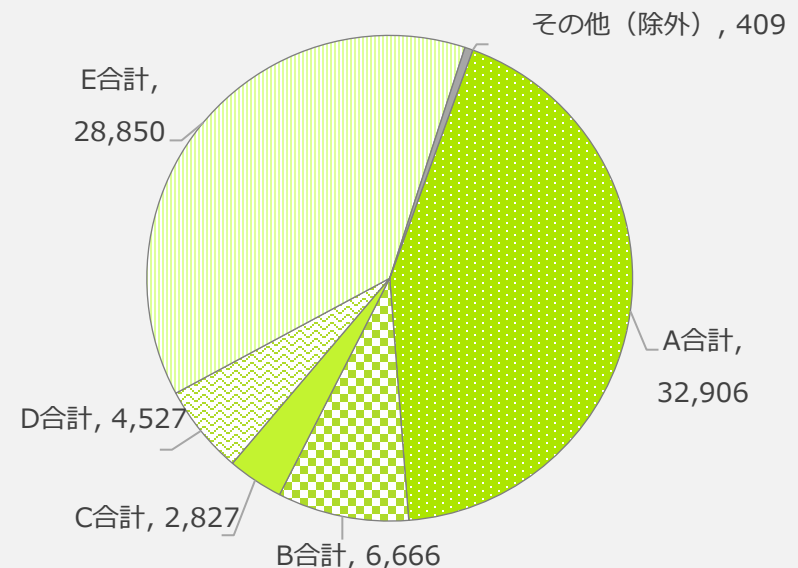
集計対象



検診機関	集団	個別
A	29	3
B	0	5
C	0	1
D	0	1
E	0	1
除外	0	10

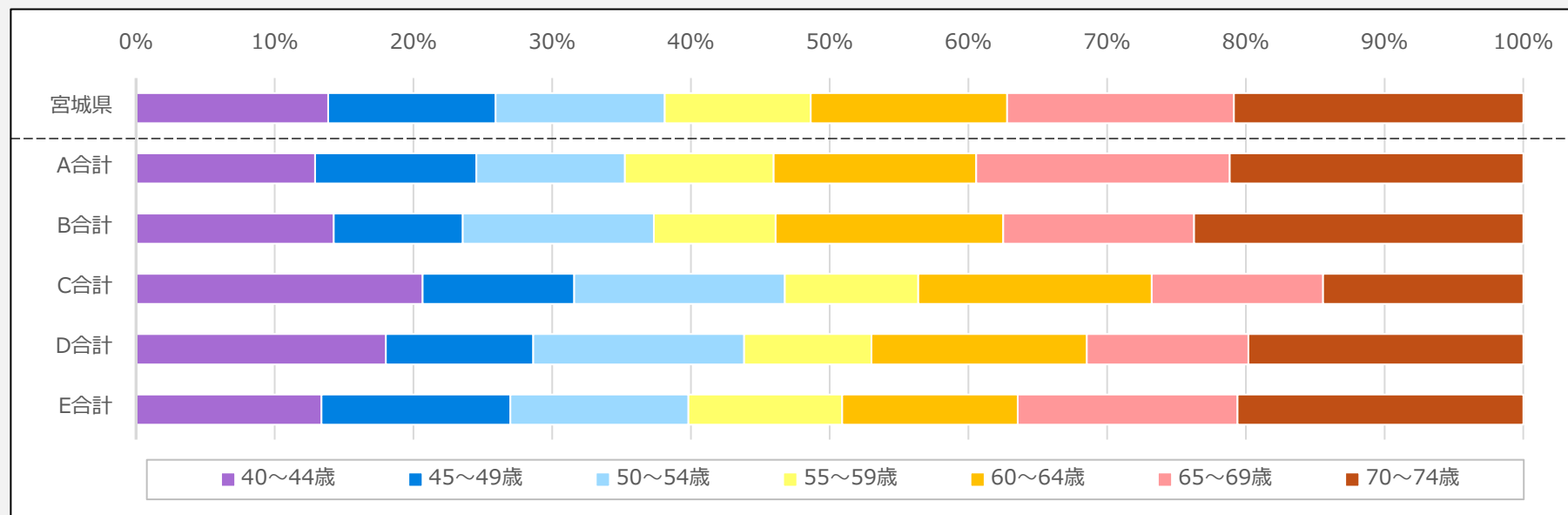
検診機関CとDについては、検診機関毎の集計をしていない市町村分を除いた

検診機関毎の受診者数割合と人数 (2021 (R3) 年度)



検診機関毎の受診者年齢構成割合 (2021 (R3) 年度)

検診機関毎の年齢構成割合 (2021 (R3) 年、40～74歳、男女計)



年代	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74
宮城県	13.9%	12.1%	12.2%	10.5%	14.2%	16.3%	20.9%
A合計	12.9%	11.6%	10.7%	10.7%	14.6%	18.3%	21.2%
B合計	14.2%	9.3%	13.8%	8.8%	16.4%	13.8%	23.7%
C合計	20.7%	10.9%	15.2%	9.6%	16.8%	12.3%	14.4%
D合計	18.0%	10.6%	15.2%	9.2%	15.5%	11.6%	19.8%
E合計	13.4%	13.6%	12.8%	11.1%	12.7%	15.8%	20.6%

出典：地域保健・健康増進事業報告(健康増進編)市区町村表
第19-1表乳がん検診受診者数… から県で計算

検診機関毎の各プロセス指標等（2021（R3）年）

男女計（40-74歳）					男女計（40-74歳）							
プロセス指標					受診者数	要精検者数	精検受診者数	（結果内訳）				
区分	精検受診率	要精検率	がん発見率	陽性反応適中度				異常なし	がん	疑いのある者又は未確定	腺腫のあった者	以外の疾患
宮城県	97.8%	3.67%	0.341%	9.31%	76,185	2,793	2,731	989	260	13		1,469
A合計	99.0%	3.52%	0.356%	10.11%	32,906	1,157	1,146	437	117	0	0	592
B合計	97.1%	5.10%	0.240%	4.71%	6,666	340	330	87	16	5	0	222
C合計	96.1%	5.41%	0.424%	7.84%	2,827	153	147	85	12	0	0	50
D合計	89.5%	3.38%	0.376%	11.11%	4,527	153	137	58	17	0	0	62
E合計	98.2%	3.39%	0.336%	9.93%	28,850	977	959	318	97	7	0	537

出典：地域保健・健康増進事業報告(健康増進編)市区町村表 第34-2、5表 令和3年度における乳がん検診受診者数… から県で計算
プロセス指標のため40-74歳を抽出

(参考) 3年平均 (2019-2021年)

男女計 (40-74歳)					男女計 (40-74歳)							
プロセス指標					受診者数	要精検者数	精検受診者数	(結果内訳)				
区分	精検受診率	要精検率	がん発見率	陽性反応適中度				異常なし	がん	疑いのある者又は未確定	腺腫のあった者	以外の疾患
宮城県	97.8%	3.65%	0.323%	8.87%	74,650.0	2,731.7	2,672.0	1,028.0	241.3	15.7	0.0	1,387.0
A合計	98.5%	3.00%	0.292%	9.83%	4,108.0	123.3	121.3	48.7	12.0	0.0	0.0	60.7
B合計	97.4%	5.04%	0.256%	5.07%	6,782.7	342.0	333.0	90.7	17.3	5.0	0.0	220.0
C合計	97.8%	6.06%	0.350%	5.78%	2,474.7	150.0	146.7	85.7	8.7	0.0	0.0	52.3
D合計	96.0%	3.91%	0.355%	9.09%	4,506.3	176.0	169.0	87.3	16.0	0.0	0.0	65.7
E合計	98.0%	3.57%	0.332%	9.29%	28,221.7	1,008.7	988.0	354.3	93.7	6.7	0.0	533.3

出典：地域保健・健康増進事業報告(健康増進編)市区町村表 第34-2、5表 令和元～3年度における大腸がん検診受診者数… から県で計算
プロセス指標のため40-74歳を抽出

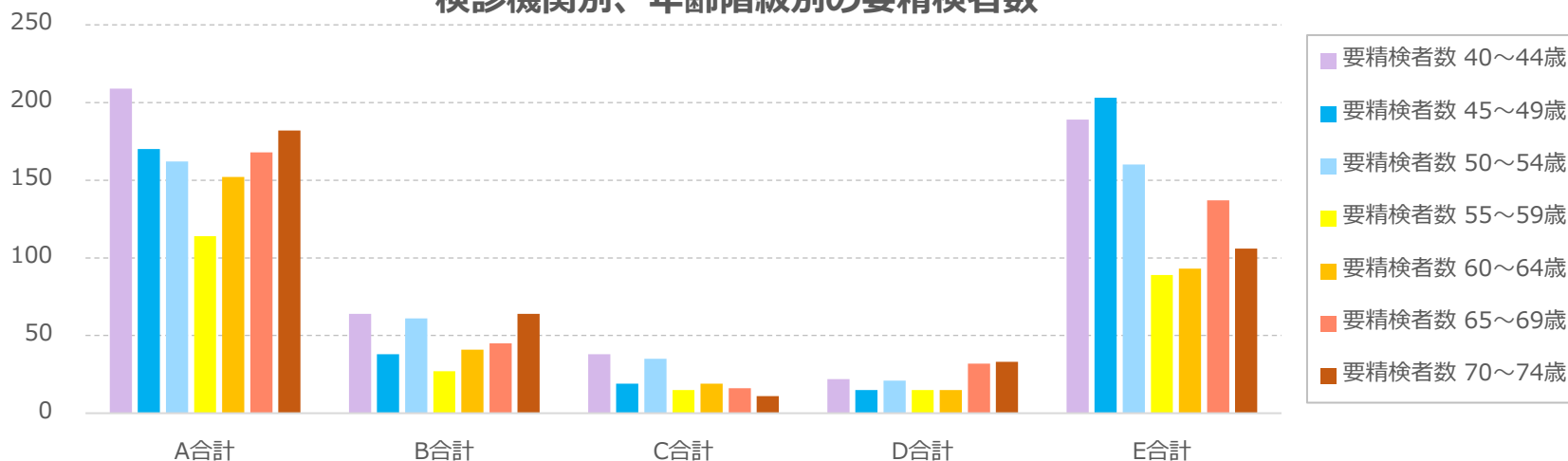
注意：プロセス指標は、令和元年度から令和3年度までのそれぞれのプロセス指標の3年平均を算出したもの。

検診機関毎の要精検者年齢構成割合（2021（R3）年度）

検診機関毎の要精検者数（2021（R3）年、40～74歳、男女計）

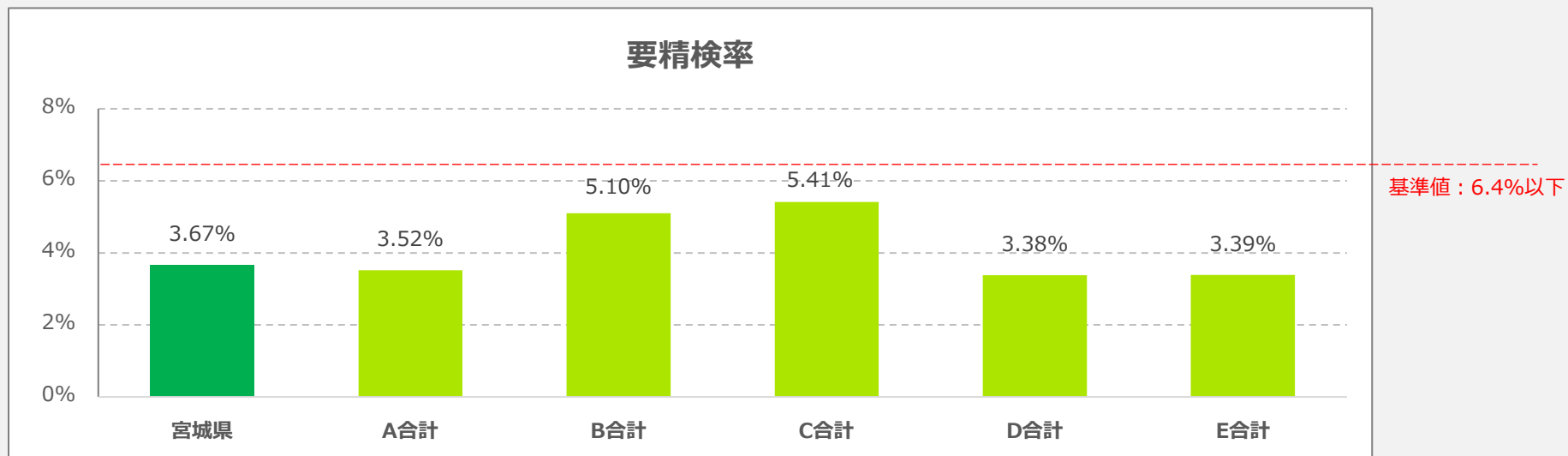
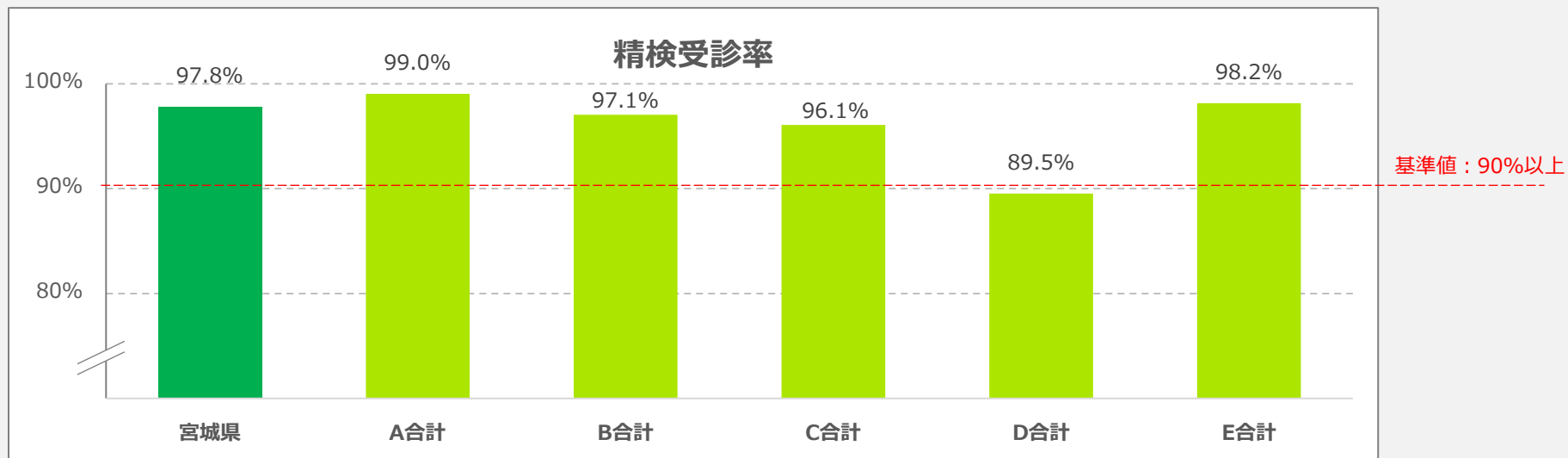
	要精検者数							40-74計	要精検率
	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳		
宮城県	522	445	439	260	320	398	396	2,780	3.65%
A合計	209	170	162	114	152	168	182	1,157	3.52%
B合計	64	38	61	27	41	45	64	340	5.10%
C合計	38	19	35	15	19	16	11	153	5.41%
D合計	22	15	21	15	15	32	33	153	3.38%
E合計	189	203	160	89	93	137	106	977	3.39%

検診機関別、年齢階級別の要精検者数

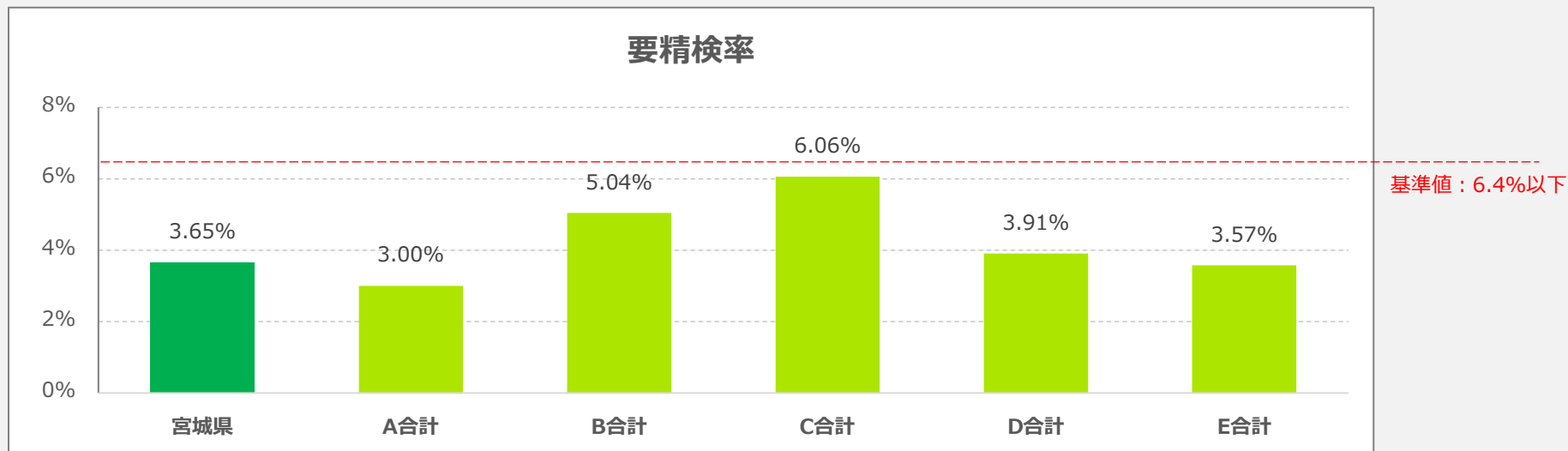
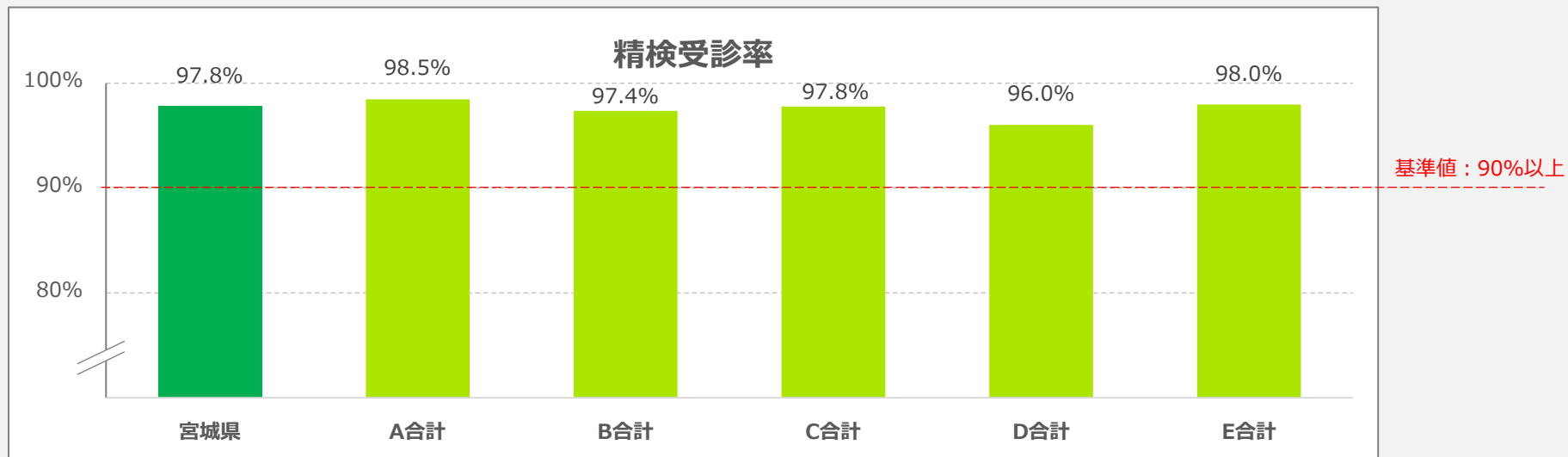


(余白)

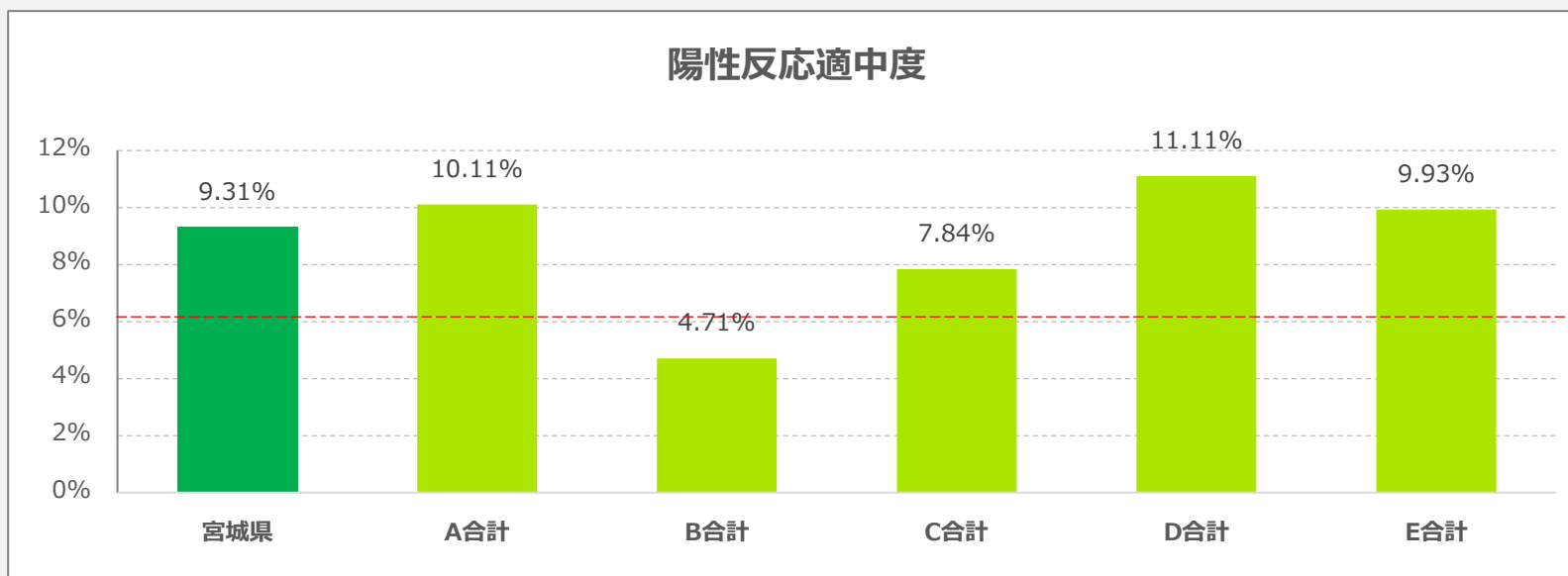
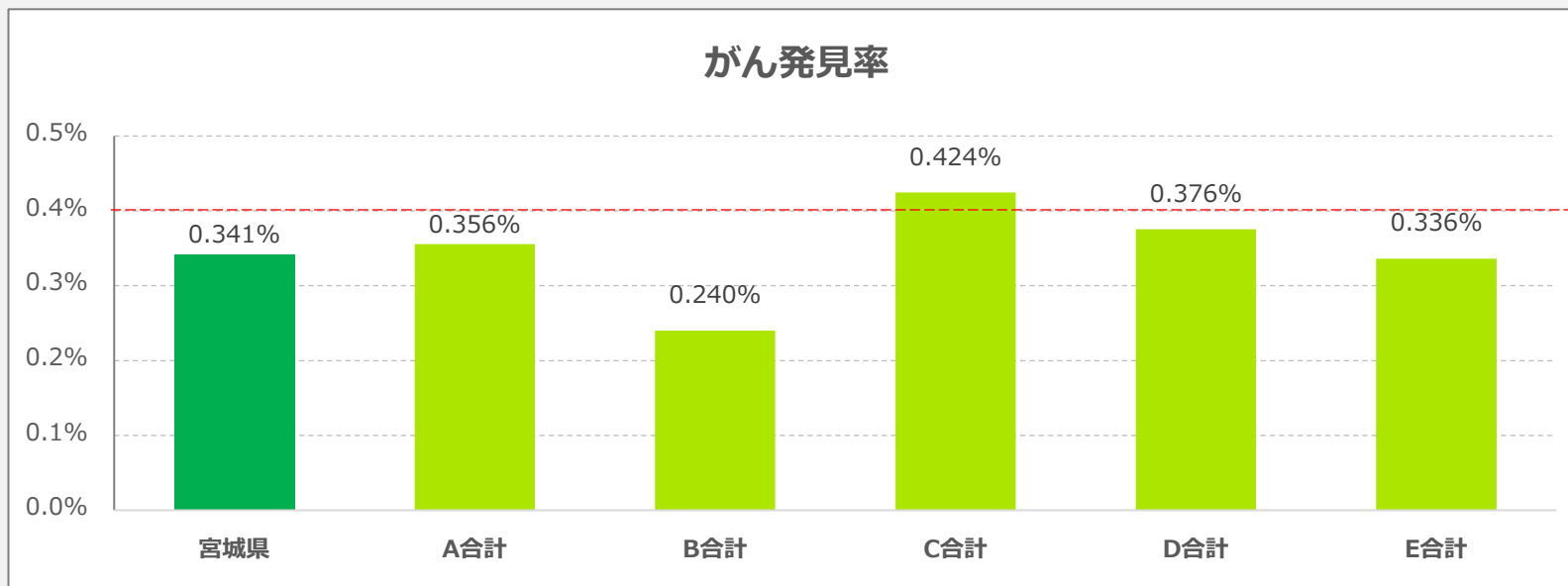
検診機関毎の各プロセス指標①（2021（R3）年）



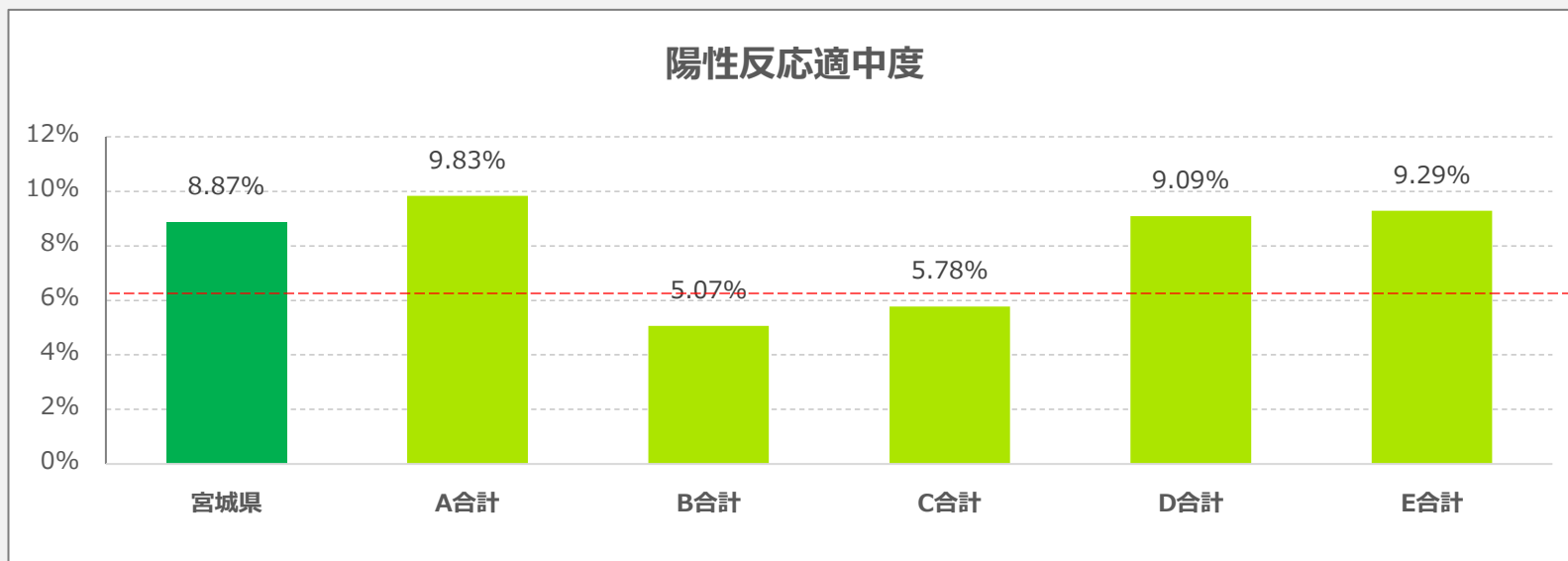
各プロセス指標① 3年平均 (2019-2021年)



検診機関毎の各プロセス指標② (2021 (R3) 年)



各プロセス指標② 3年平均 (2019-2021年)



プロセス指標の意味と活用方法

	各指標の意味 【算出方法】	各指標値の評価	値が適正でない場合の検討事項		
			指標	予想される原因	検討内容
要精検率	検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているか 【要精検者数／受診者数×100】	対象集団に依じて適切な範囲があり、極端な高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要	高値	① 受診者が有病率の高い集団に偏っている ② 偽陽性が多い	① 有症状者が検診を受けていないか(有症状者は診療を受けるよう指導する)、有病率の高い年齢層、有病率の高い初回受診者に偏っていないか ② 各検診機関の要精検の判定基準は適切か
			低値	① 受診者が有病率の低い集団に偏っている ② 偽陰性が多い	① 有病率の低い年齢層に偏っていないか(年齢層、受診歴等) <u>② 各検診機関の要精検の判定基準、検査手技、読影等は適切か</u>
陽性反応適中度	その検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標(検診の精度を測る指標) 【がんであった者／要精検者数×100】	基本的に高いことが望ましいが、極端に高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要	極端に高値	受診者が有病率の高い集団に偏っている	有症状者が検診を受けていないか(有症状者は診療を受けるよう指導する)、有病率の高い年齢層、有病率の高い初回受診者に偏っていないか
			低値	① 受診者が有病率の低い集団に偏っている ② 偽陽性が多い	① 有病率の低い年齢層に偏っていないか(年齢層、受診歴等) <u>② 各検診機関の要精検の判定基準、検査手技、読影等は適切か(要精検率が高い場合、本来は精検が不要な者を要精検として判定している可能性がある)</u>

チェックリスト項目（検診機関）

検診機関用

がん検診のためのチェックリスト 集団検診・個別検診
(内容は、各がんにより異なる)

乳がん用

項目	項目数
1. 受診者への説明（検診の際、あるいはそれに先立って受診者全員に対して行う説明）	6
2. 問診及び撮影の精度管理	12
3. 乳房エックス線読影の精度管理	4
4. システムとしての精度管理	6

例（詳細）

（チェックリスト項目数 計28問）

100%実施（R7）

（検診機関の自己申告により、県では内容までは確認していない）

項目
3. 乳房エックス線読影の精度管理
(1) 読影は二重読影を行い、読影に従事する医師のうち少なくとも一人は乳房エックス線写真読影に関する適切な講習会(注2)を修了し、その評価試験でAまたはBの評価を受けているか※ ※ 上記の評価試験でCまたはD評価、講習会未受講の場合は至急改善すること
(2) 二重読影の所見に応じて、過去に撮影した乳房エックス線写真と比較読影しているか
(3) 乳房エックス線画像は少なくとも5年間は保存しているか
(4) 検診結果は少なくとも5年間は保存しているか

まとめ（乳がん）

- 検査人数（受診者数）や年齢構成は、検診機関によってやや異なるが、要精検率などのプロセス指標にバラつきがみられた。
- 3年平均でもても同様な傾向がみられた



値の評価、要因等について、専門的な見地から御意見をお願いします